

オーディオ実験室収載

モーツアルト盤を聴く(110)(HP 収載) —最新アナログシステムでの試聴(110)—

1. 始めに

前報(109)に引き続き、新たに入手したモーツアルトのアナログ盤を最新アナログシステムで試聴していきます。

2. モーツアルトのアナログ盤の試聴方法

モーツアルトのアナログ盤の由来およびアナログシステムの状況は前報(1)のとおりです。今回は、LINN LP-12 を使用します。

試聴システムは仮想アースに加えて、スピーカーアキュライザーSPA-7 が加わっています。さらにスピーカーアキュライザーの接続をバナナプラグに置き換え、電解コンデンサーを追加し、電磁波吸収テープ NRF-005T をバナナプラグに巻いています。音源は、新たに入手したモーツアルトのアナログ盤を使用していきますが、今回は器楽アンサンブル曲です。

PHILIPS 6500 004

モーツアルト **DIVERTIMENTO B-dur**
DIVERTIMENTO B-dur
ADAGIO F-dur
DIVERTIMENTO ES-dur

EDO DE WAART 指揮

MITGLIEDER DES NIEDERLAENDISCHEN
BLAESERENSEMBLES

3. モーツアルトのアナログ盤の試聴結果

PHILIPS 盤ということで、RIAA、正相、第4時定数 High で聴いていきました。同じ木管アンサンブルのディヴェルティメントですが、前報(109)より録音が新しくステレオ盤になっていますので、音質は前報(109)よりよくなっています。それぞれの木管の音が明晰で、質感が明瞭になっており、明るく快活な曲の表情が浮かび出ています。

4. まとめ

ターンテーブルアキュライザー、ダンパーフレーク、Crystal E、スピーカーアキュライザーなどの総合的な効果により、上記の盤の特徴がよく把握できます。

以上/